

【研究区分：地域課題解決研究】

研究テーマ：今後の尾道市立小中学校の在り方に関する研究	
研究代表者：生物資源科学部 生命環境学科 准教授 藤井宣彰	連絡先：nfujii@pu-hiroshima.ac.jp
共同研究者：尾道市教育委員会 教育長 佐藤昌弘 同学校教育部 部長 小柳哲雄 同学校教育部学校経営企画課 課長 三浦敏忠 同学校教育部学校経営企画課 課長補佐兼企画振興係長 水馬宏昌	
<b>【研究概要】</b> 尾道市においては、児童生徒数が減少するなか、学校施設の老朽化や自然災害への対応が喫緊の課題となっているが、学校を存続させるのか、再編するのか、現時点では結論が出ていない。そこで、保護者、学校関係者、教職員に対してアンケート調査を行った。保護者は、安全安心に学校生活を送れるよう施設など充実させてほしいと強く希望している。学校の規模は、1学年複数学級で1学級20人台が適当であると考えられている。	

**【研究内容・成果】**

**1. 研究内容**

本研究の目的は、今後の尾道市立小中学校の在り方について、学校再編や新たな教育課題に着目して検討を行うための基礎資料を得ることである。

近年の教育改革により、学校種間連携が推進されている。小中学校の設置者である市町村教育委員会は小中連携教育に力を入れている。また、学校が地域住民や保護者と教育目標を共有し、組織的・継続的な連携を行うことを意図したコミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）の導入が努力義務化されている。さらに尾道市においては、児童生徒数が減少するなか、学校施設の老朽化や自然災害への対応が喫緊の課題となっているが、既存の児童生徒数が減少する学校を存続させるのか、新たな学校へ再編するのか、現時点では結論が出ていない。令和3年度に、中心部の久保小学校、長江小学校、土堂小学校は、耐震化への一時避難として、仮校舎へ移転した。尾道市教委は従来、この機会に3小学校を新設校に統合する方針であったが、再編への市民の異論もあり、この方針は白紙となった。児童の安全確保は喫緊の課題であり、仮校舎への移転は行うものの、4年間の使用見込みであり、その後の3小学校の在り方について検討が迫られている。

尾道市教委としては約20年、学校の在り方について市民の意見を調査することはしていないため、アンケート調査により有効となり得る基礎資料の作成を行う必要がある。ただし、「21世紀の尾道の学校のあり方 市民アンケート」（平成13年11月、市民を無作為抽出）、本学重点研究事業での「学校選択制度に関するアンケート」（平成30年7月、小6中3の児童生徒及び保護者、就学前年長児の保護者、町内会長を対象）を実施したことがある。

調査対象者は、平成30年調査や5年後の尾道教育プラン検討時に経年比較が可能となることを考慮し、小学校3年と中学校2年の保護者とした。市民の対象者は、学校教育に関心を持って、学校に日頃から出入りしている、学校評議員、学校関係者評価委員、学校運営協議会委員の学校関係者とした。また、今後の学校の在り方について現場の声をいかすため教職員を対象とした。先進事例の調査も本来は行う予定であった。しかしながら、新型コロナウイルス感染の拡大を受けて、アンケート調査以外は実施できなかった。

令和3年9月に尾道市立小中学校において、小学校3年生及び中学校2年生の保護者、学校関係者（学校評議員・学校関係者評価委員・学校運営協議会委員）、教職員に対してアンケート調査を行った。調査票は、9月10日付けで各小中学校へ配布を依頼し、一式を学校へ送付した。保護者に対しては学校から児童生徒へ調査票を持ち帰らせ、学校で回収した。学校関係者に対しては、学校から郵送し、尾道市教育委員会宛てに郵送で返送を依頼した。

表1 令和3年9月末までの回答状況

	保護者	学校関係者	教職員
配布	1,959	246	736
回答	1,735	203	732
回答率	88.6%	82.5%	99.5%

## 2. 研究成果

### (1) 通学について

保護者に通学について困った事や心配な事を尋ねた結果、「あてはまる」との回答が多かった項目は、「通学路が狭いことや交通量が多いなど、交通事故の心配」43.3%、「雨の日の通学」39.1%、「不審者など防犯上の心配」34.9%、「災害時の登下校」32.9%であった。通学路に危険な箇所が多く、通学に心配をしている保護者が多い。

### (2) 学級・学年の規模について

保護者に学級人数及び学年クラス数について適当であると考えられる規模を尋ねた。「1学級あたりの人数は何人が適当であるとお考えですか。」との質問に、小学校では「21～25人」36.1%、「26～30人」35.2%の回答が多くなっており、中学校では「26～30人」41.0%の回答が多くなっていて。小中学校とも20人台が適当であると考えられている。「1学年あたりのクラス数は何クラスが適当であるとお考えですか。」との質問には、小学校では「2クラス」39.0%、「3クラス」44.6%の回答が多くなっており、中学校では「3クラス」51.5%の回答が多くなっていて。小中学校とも1学年複数クラスが適当であると考えられている。

### (3) 尾道市の今後の教育に希望すること

表2は、保護者に尾道市の今後の教育に希望することについて尋ねた結果である。「トイレ等の衛生面の向上」、「学校安全の推進」、「学校のバリアフリー化」の希望が多く、安心・安全な学校生活が望まれている様子が伺える。小中連携についてはある程度希望されているものの、小中学校の区分の変更はさほど希望されていない。また、コミュニティ・スクールへの希望もさほど多くないようである。

表2 本市の今後の教育に希望することについて答えてください。(保護者・「希望する+どちらかといえば希望する」の%)

トイレ等の衛生面の向上	93.1%	小学校と中学校の間での指導方針の統一	49.8%
学校安全の推進	88.5%	異年齢共同の学び	49.1%
図書室の充実	78.9%	他校種の教員による授業	47.1%
内容が充実した部活動	77.8%	上記項目以外	44.2%
一人一人に合わせた学び	77.7%	小学生と中学生が授業で交流	43.0%
学校のバリアフリー化	73.5%	小学生と中学生が部活動で交流	42.0%
学校のICT化	71.1%	小学校の教科担任制	40.5%
たくさんの種類の部活動	66.0%	本市の教育をリードする学校	34.1%
学校間で均質な教育	62.3%	地域住民や保護者が校長の方針を承認	32.0%
教科横断的で探究的な学び	60.2%	地域住民や保護者が学校運営に意見	31.1%
地域のシンボルとなる学校づくり	56.4%	地域住民や保護者が来てほしい先生を希望	26.5%
小学生と中学生が学校行事で交流	54.8%	小学校6年間、中学校3年間の区分の変更	13.2%
9年間を見通したカリキュラムに基づく授業	50.2%		

アンケート調査でいただいたご意見を参考に、尾道市教育委員会と相談をしながら、今後の学校再編と教育内容の方向性を模索しているところである。